

# 井戸端だより

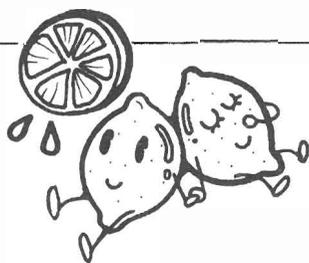
第46号

発行日：2004. 6. 30

発行：くらしの学習会

## もくじ

愛媛新聞掲載文	.....	1
4月例会 桜にさそわれて	.....	2
4月例会報告記	.....	3
蝶のボランティア	.....	5
「身近な水環境の全国一斉調査」に参加して	.....	7
愛媛新聞掲載文	.....	9
愛媛新聞掲載文・読者からのはがき	.....	10
雑感	.....	11
閑谷学校を見学して	.....	14
四角いハコモノ	.....	15
愛媛新聞掲載文・お知らせ	.....	17



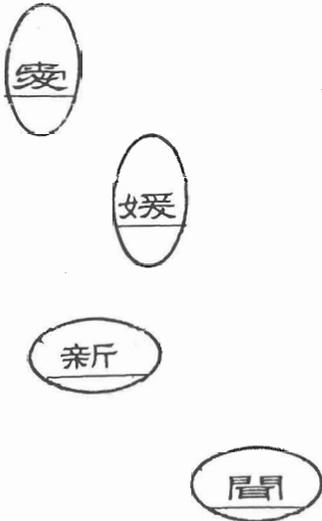
# 和田重信町長引退へ 東温市長選 出馬せず

温泉郡重信町の和田治樹町長(左)無所属、三期は二十三日、重信・川内両町合併により九月発足予定の東温市市長選に出馬せず、引退する意向を表明した。

二十三日の定例町議会一般質問で、和田氏は「古希を迎え、心身ともに一歩後退した感がある。合併作業の解決と同時に首長の職務はもうこの辺りで終えたい」と答弁した。

答弁後の記者会見で和田氏は、後援会との最終調整を残しているとしたものの、引退の意思を強調。「後継指名をする考えはない」としている。

和田氏は一九九二年、町商工会長から出馬し初当選。二期目は無投票、三期目は元町議に圧勝し



## 6月25日 金曜日

た。今年三月時点では出馬に前向きな姿勢を示していた。

東温市長選にはこれまで、同町志津川、元泉部 長高須賀功氏(六)無所属が立候補表明して

属が出馬の意向を固めている。

### 粗大ごみ処理 有料化も検討

#### 重信町 (23日・定例最終) 一

般会計補正四億二千三百四万円(累計七十六億四千三百四万円)、下水道事業会計補正二億八千九百二万円(同十一億六千七百二十七万円)など十九議案と意見書一件、決九議案と意見書一件、決議一件を原案可決。専決処分三件を承認、請願一件を一部趣旨採択した。

主な補正は、地域インフラネット基盤施設整備工事三億七百二十四万円▽別府ゴルフ場線道路改良工事二千七百万円▽田園自然環境保全再生支援事業調査等委託料千八百万円―など。

桂浦善吾(無所属)安井浩二(同)丹生谷操(同)諸伏静江(同)永井雅敏(同)高須賀徳(同)佐藤寿兼(共産)浜田卯三郎(同)佐伯強(同)の九氏が一般質問。

ごみ有料化の考えと処理浄化槽清掃料金値上げについて理事者は「有料化が不法投棄増大の誘因になるのは事実だが、ごみ処理の自治体負担も増大している。リサイクルにはコストがかかる側面もある。粗大・燃やさないごみの有料化は、周辺市町村の動向を見ながら検討していく必要がある。単独処理浄化槽が二〇〇〇年改定の料金に合わせ値上げされた。松山衛生事業協同組合の標準料金を適用し重信町が特別に高いわけではない。公共下水道供用が始まり切り替えが進めば、一基当たりの経費が上がり料

金に反映されるかもしれない」と述べた。浄化槽清掃を一社が独占し値上げにつながっているとの質問に和田治樹町長は「新規業者を入れて競争させるのは理想だが、人口規模や下水道普及でごみ取りが減るといふこともある」と述べた。



## 4月例会 桜にさそわれて

4月5日（月）桜に誘われて会員5人西条市へ出かけました。予定では、四国中央市にある「川の江紙のまち資料館」の見学だったのですが、月曜日は休館と言う事で急遽変更になってしまいました。

今治の会員と西条駅で待ち合わせ、まず、桜咲き乱れる「武丈公園」へ。（武丈の名の由来は天保年間、近くの村の庄屋、加藤定衛門がここに隠居所を建て、自らの雅号にちなんだ「武丈庵」と名付けたことによるという）愛媛県下でも桜の名所で100余种約1500本の桜並木は加茂川堤に花のアーチをつくり出し、加茂川の清流と背後の八堂山とともにその美しさは「四国の嵐山」とも呼ばれている所です。西条で生まれ育った私にとってこの場所は、春はお花見、夏は水泳・キャンプ（最近では「いもたき」も有名）秋は西条祭クライマックス「川入り」と思い出の多い場所ですが、結婚後あまり足を運ぶチャンスが少なく、久し振りの武丈の桜に感激しきりでした。心地好い川風を感じながら、「重信川の自然をはぐくむ会」に参加している会員の活動経過報告を聞き、話し合いをし、次の場所「アサヒビール四国工場」へ。事前予約無しでしたが11時からの見学に入れてもらえました。（報告は別の会員が担当）

12時過ぎ、ビール工場を後にし、加茂川近くのレストランへ。ビール工場で飲んだ出来立てのビール（運転手さんはジュースです）が食前酒となり、昼食をおしゃべりと共においしくいただき、電車で帰る今治の会員を西条駅まで送り帰路に。

途中、せっかくだからと「石鎚神社」へ寄り道。駐車場も混雑し、人の往来の多さを不可思議に感じながら上がっていくと「春の大祭」当日だった為と判明。高台にある本殿からの桜は見事で、田園風景のむこうに少しかすんだひうち灘が広がる景色をぼんやり眺めていると、忙しい日常を忘れさせ、ほっとする一時となりました。

帰りの車中で、ウマノスズクサ（ジャコウアゲハの幼虫のえさ）の移植の話が出て、実行する為には役場の意見を聞く必要があるのではと言う事で、重信町役場へ。「住民環境課」の池川係長と話をし、とりあえず自分達で出来る範囲の移植を4月26日（月）午後、作業をすることを決めて解散となりました。

A. M



## 4月例会報告記

4月例会は、春の陽気に誘われて、西条にあるアサヒビール四国工場まで行って来ました。

この工場を見学するには、電話予約が必要です。見学者は、受付で予約した氏名と人数を告げ、案内の人に誘導されて、見学ルートを進みます。

まず、ビデオ鑑賞です。ビデオはビール原料の調達から製品化までの工程の紹介から始まります。そして、それに関わる各職員のこだわりと、美味しいビールを造りたいという心意気と努力を紹介しています。その間約30分です。

鑑賞後、工場の製造現場をガラス越しに見せてもらいます。案内の人の説明を聞いたり、質問をしたりしながら歩くこと約30分。

まず最初に、仕込工程の釜を見ます。この釜の中には、お湯に麦芽の一部と米・コーンスターチなどの副原料を加えて煮たものが入っています。それに残りの麦芽とお湯を加えた物を入れ、液中のでんぷん質が麦芽糖に変わるのを待ちます。麦芽糖が変わったら、ろ過して透明な麦汁にします。それにホップを加え煮沸すると、ビール特有の芳香と苦味が生まれるのです。この工程では、温度と時間の調整がとても大切です。それは「何度までどの位の時間をかけて温度を上げていくか、その温度を保つか」という微妙な調節ですが、全てコンピュータ制御でされていて、ビールの銘柄によって違うプログラムになっているということです。

そのコンピュータ制御室を発酵熟成工程に進みます。よく冷やした麦汁に、ビール酵母を加えて、発酵させます。麦汁中の糖分がアルコールと炭酸ガスに分解されて“若ビール”の誕生です。酵母はビール造りの原料の一つです。直径0.01mmの微生物である酵母は一杯のビールに約100億個使われます。

酵母の力で発酵完了して出来た若ビールは熟成工程に入ります。その間数日を要します。熟成を終えたビールをろ過機に通したら、ご存知“生ビール”の完成です。

完成したビールは、びん詰・缶詰工程へと運ばれますが、びんや缶に入れられる前に官能検査が行われています。毎日出来上がったビールを、検査専門の担当者が実際に試飲して、味を確かめるのだそうです。味や香りはコンピュータで確かめることは出来ないでしょう。工場内で人を見るのはコンピュータ制御室と空ビン検査機の前で目視検査をしている人各1人ずつです。

目視検査とは空ビン検査機を通ったビールびんを更に人の目で検査することです。これは1分間に200本のびんを検査するため、20分交代で行われています。

官能検査と目視検査ですが、ビール製造工程に人間の五感の一部が使われているのを知って安心しました。

工場見学が終了したところで、ビール豆知識を、ビール工場のパンフレットより抜粋しましょう。

① **ビールのつぎ方**

- ・ グラスは立てたまま、初めはゆっくりと
- ・ 途中から勢いよく一気に
- ・ 泡が立ち始めたら再びゆっくり注ぎ  
ビールと泡の比率を7:3にする

② **缶ふたの突起**

- ・ プルトップ脇の突起は点字で「おさけ」と書いてある。1996年4月から刻印している。

③ **ビールの原料 (大びん1本当たり)**

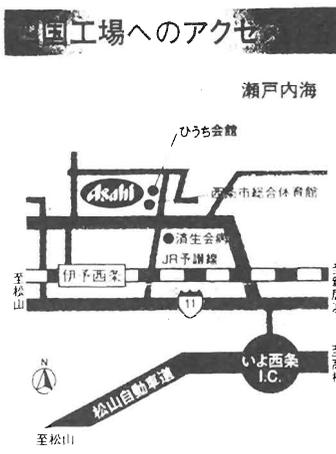
- ・ 水
- ・ 大麦の麦芽 70~90g (手のひら2杯分)
- ・ ホップの花 約1g (10個)
- ・ 酵母 ?g (約スプーン3杯分)

~副原料として、米のコーン・スターチを加えるが、これはビールの味を調整し、すっきりした味にするのに役立つ~



ドイツの哲学者カントは『ビールを飲むことは、よい食事をするようなものだ!』と言ったそうです。ドイツほどではないかもしれませんが、この季節は、日本でビール消費量が年間最高になります。美味しいビールが出来上がる為には、いかに工場が近代化されても、原料を選ぶ人の力を検査する人の五感が必要だという事、そして原料の殆どを占める水の美味しさが重要であると学んだ例会でした。

R・D



- 交通
  - JR予讃線・伊予西条駅下車 タクシーで約10分
  - 松山自動車道・いよ西条I.C.より約8km、車で約12分
- ご案内所要時間 約75分 ※旅程に合わせた短縮コース有
- 定休日
  - 年中無休 年末年始・指定休日を除く
- ご案内受付時間 AM9:30~PM3:00
- お問い合わせ・ご予約 アサヒビール四国工場 ご案内係 〒793-0003 愛媛県西条市ひうち2番地6 TEL.0897-53-7770 FAX.0897-53-7799
- \*お手数ですが、必ずお電話でご予約ください
- \*工場・ご案内は無料です
- \*見学通路での写真・ビデオの撮影はご遠慮ください
- \*製造ライン停止時はモニターでご説明致します
- \*手話でののご案内は承れません(ご予約の際にお申し出ください)
- \*食品工場のため、衛生管理上、お手を洗ってください
- \*工場はご遠慮ください

ビール工場については <http://www.asahibeer.co.jp/brewery/> でもご覧いただけます。 **アサヒビール株式会社**

## 蝶のボランティア

ジャコウアゲハは、黒っぽい可愛い蝶です。あまり人をおそれず（というか、逃げ方が下手？）結構私たちの近くで、ひらひらと飛んでくれます。我が家で飼っていた時も、私が庭に出ると、驚くのか好奇心なのかは分かりませんが一度は寄ってきて舞ってくれました。幼虫はウマノスズクサだけしか食べません。野菜や米は食べないので、農家に迷惑をかけません。ですから比較的保護しやすい蝶だと思います。

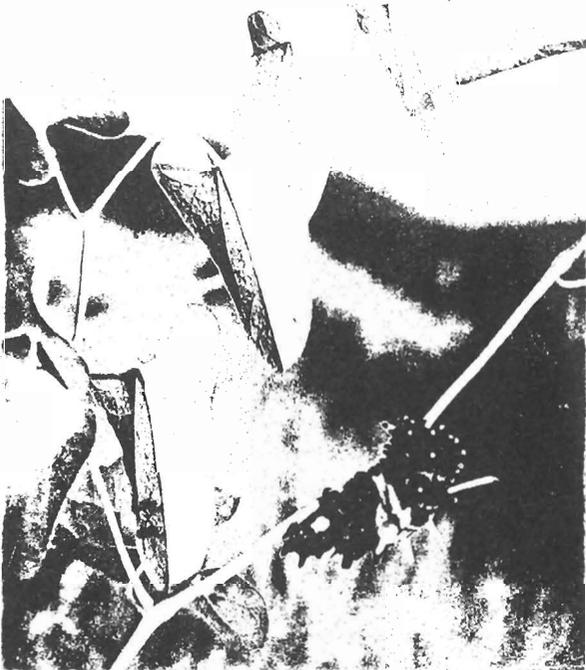


ジャコウアゲハ 4/26 撮影

それが今回、その生息地である重信川堤の一部で、舗装の計画があると聞きました。そこはウマノスズクサが以前から多く育っていましたので、とりあえず移植しようということになりました。役場に問い合わせると、舗装の計画は無いとのことでしたが、一応今後のこともあるので、移植してみることにしました。

4月26日に会員6名で舗装の心配の無い場所に50株ほど移しました。その後水やりと草刈りに時々行っていますが、地上部分の葉や茎は3週間ほどで枯れました。それでも3株ほどは2ヶ月経った今も、元気な緑の葉を広げています。姿を消した株も地下では生きていて来年には芽が出ると期待していますが、詳しいことはまた専門家に指導してもらおうつもりです。

今日（6月25日）も様子を見てきましたが、5分くらいで3種類の蝶に出会えました。ここは景色も良くて、蝶にとっても人にとっても本当にいい所だと、いつも思います。 (k. k)



ウマノスズクサとジャコウアゲハの幼虫

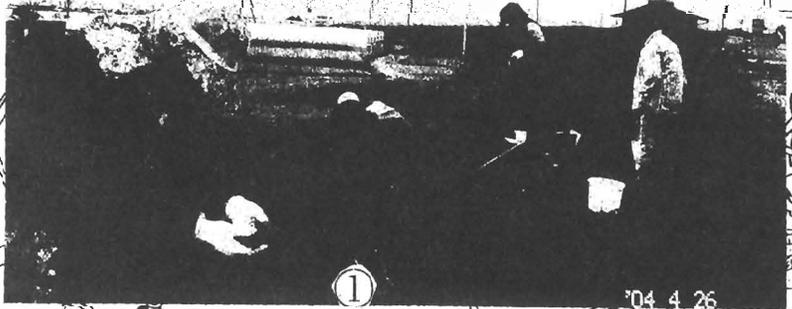
大野前泉

(小野公園内)



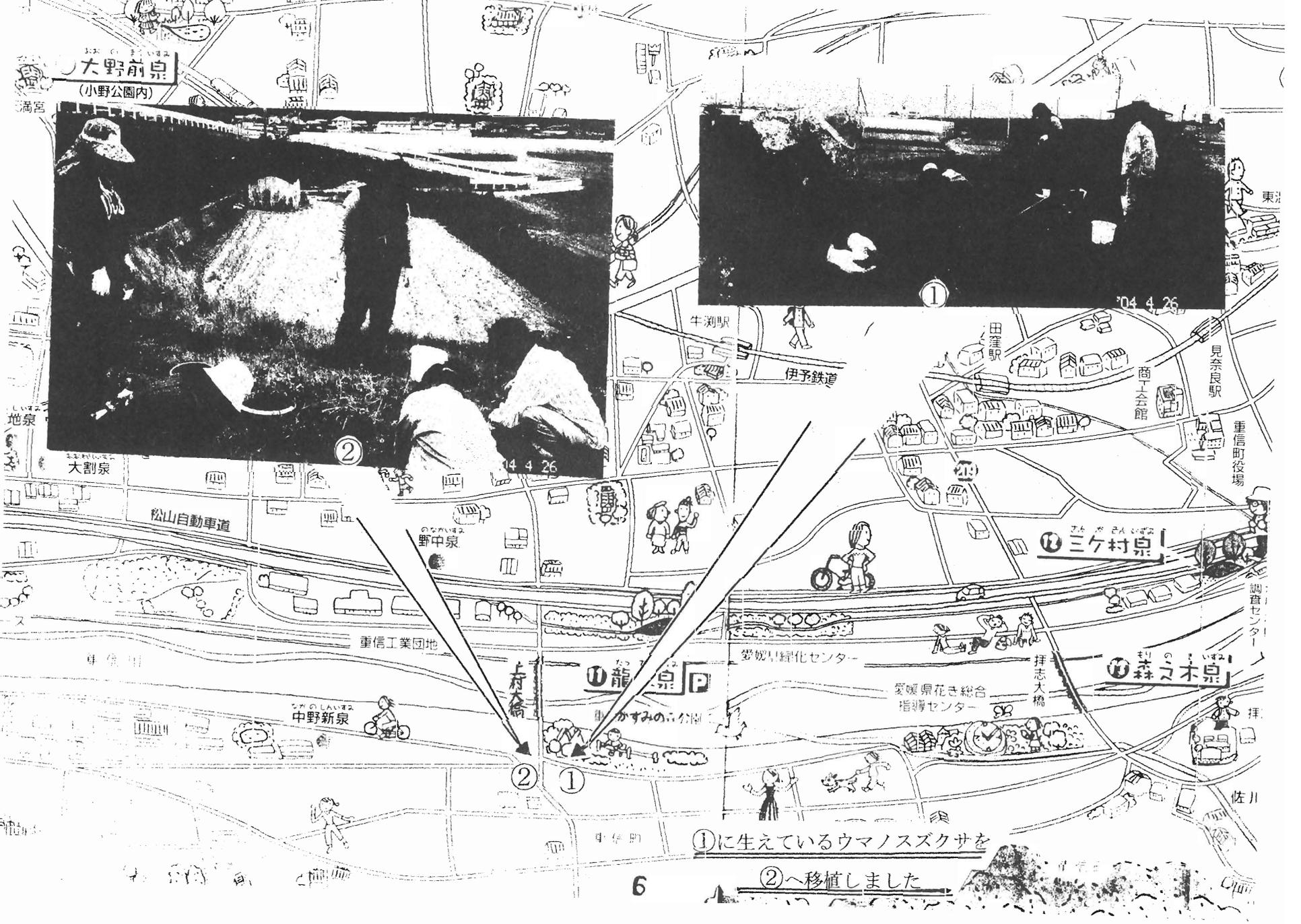
②

14 4 26



①

14 4 26



①に生えているウマノスズクサを

②へ移植しました

## 「身近な水環境の全国一斉調査」に参加して

6月6日(日)「身近な水環境の全国一斉調査」をKさんと二人で重信町内3ヶ所で行いました。

この調査の目的と意義は、河川や水辺等身近な水環境の保全や修復に関する市民の意識が高まり、1980年代半ばから身近な川の一斉調査が全国各地で行われています。しかし、調査の方法や項目などは必ずしも統一されておらず、水質の測定精度も十分に保証されていません。このような多くの結果を有効に利用するためには、統一的な調査マニュアルを作成し、測定精度の管理システムと全国各地の結果を比較できるデータベースを確立することが重要と考えられます。そのため、全国で水質調査をしている市民団体などが、国土交通省及び財団法人河川環境管理財団と連携して全国の河川や水辺等、身近な水環境の水質を一斉に調査し、全国の水環境マップを作成することになりました。市民が自ら水質を調査し、水環境の実態を明らかにすることにより、その保全と修復に関する今後の活動へ発展することが期待されるとして、「重信くらしの学習会」として申込み、実施しました。

今回の調査内容は、パケットテストCOD(D)の測定でしたが、私たちが良く耳にするBODとの違いの説明をしておきます。

COD(Chemical Oxygen Demandの略称)は生物化学的酸素要求量または生物化学的酸素消費量といわれています。CODは試水中に過マンガン酸カリウムなどの酸化剤を加え、一定の条件で反応させたときに消費される酸化剤の量を求め、それに対応する酸素の量に換算して表現したものです。すなわちCODは、試水中にどのくらい酸化される物質(主として有機物)があるかを示すもので、水中の有機物量の目安となります。

BOD(Biochemical Oxygen Demandの略称)は生物化学的酸素要求量または生物化学的酸素消費量といわれ、わが国では河川の水質汚濁に係わる環境基準として用いられます。BODは主として試水中の有機物により消費される酸素の量を表し、その値は微生物により分解されやすい有機物の目安となります。

したがってCODは酸化剤により分解される有機物量、BODは微生物により分解されやすい有機物量をそれぞれ現す指標と考えてよいと思います。

調査結果記入表を全国水環境マップ実行委員会に送付し、後日、結果が送られて来ましたら結果報告を致しますが、調査した数値と特記事項(※)を記載しておきます。

調査河川と地点	現地気温(℃)	試水水温(℃)	COD(D) 3回測定
内川 三島神社前の川	28℃	22℃	(1)4 (2)5 (3)5
重信川 上重信橋付近	27.7℃	21℃	(1)2 (2)2 (3)2
重信川上流 山ノ内地区	30.4℃	17.3℃	(1)2 (2)3 (3)3
龍沢泉	28℃	15℃	(1)限りなく0に近い

※龍沢泉は、パックテストが一本余ったので参考として行ったものでデータとして提出はしません。

※内川は、播磨台団地・北野田の住宅地の生排水と牛淵団地の合併浄化槽の排水が流入している場所。上重信川付近は水量が多く、山ノ内地区は水量が少なかった場所でした。梅雨には入っていましたが、降雨の少ない時期でした。

※パックテストCOD(D)の測定には付属の標準色を使用し0~8以上の9段階で結果を出します。「COD(D)が「ゼロ」mgO/Lに近い水」として、JISで定められた方法で作成された蒸留水が理想だが現実的には難しいので水道水・ミネラルウォーター・精製水などでもよいしている。

※参考資料 身近な水環境の全国一斉調査詳細マニュアル(試行版)

今年も個人的にコープえひめの環境モニターを申し込み、大気測定と酸性雨測定を実施します。結果が送られて来ましたら「井戸端便り」紙面にて報告致します。

A. M

# 重信、川内の事業者こみ流入

## 松山市、受け入れ拒否 年300トン焼却能力ピンチ

市町村内での処理が原則の「事業所ごみ」で、松山市が四月、周辺市町村からの流入分を受け入れない方針を打ち出し、温泉郡重信町、川内町が対応に苦慮していることが八日までに分かった。

法律上、市町村は原則 排出されている。法的に一般廃棄物の発生量 四町は事業所自らが焼却施設に直接搬入することと処分することを義務付けるとを原則とし、収集運搬を委託する重信町、川内町は、一部事業所から委託を受ける。同年度で約三割の事業所が、四町の事業所ごみを、四町から松山市の焼却施設に搬入していることが判明。このうち約30%が重信町、約10%が川内町で搬入禁止を継続すると、約8割に達している。

出分がすべて集まると、日量約十トンの増加となり、処理能力オーバーは必至。松山市の焼却施設も昨年年度、年間処理能力十八万トンに対して約十七万七千六百六十トンを処理しており、限界に近づきつつある。

また、町内各事業所は自主搬入を指導。松山市も収集運搬業者の指導を強化した結果、四町のこみ処理する重信町、川内町の焼却ごみは四月以降、増加している。また、同セクタの焼却処理能力は最大処理能力(日量一トン)の約8割に達している。

# 文化財エリアの今後 川内



温泉郡川内町の中心部から北広がる丘陵地帯には、弥生中後期の揚子畑(あかりほ)遺跡や川土古墳群、貴重な歴史的財産が集まっている。



温泉郡川内町北方の丘陵地帯。貴重な歴史的財産が集中する

## 地元住民に まず周知を

古寺の医王寺は温泉から北西に約八百メートル。本尊は長七十七センチを擁し、一対の石の重要文化財。川上神社から南に八百メートル下った三島神社本殿も同様の重文に指定されている。次世代に引き継ぐためにも、町と重信町、川内町が連携して、地元の方々に周知してほしい。渡部教育長は「このことができれば、今後の文化財保護審議委員会に諮り、(合併相手の)重信町にも話をしていきたい」と話す。成川耕造町長は「観光の町としての構想があるが、いずれにしても合併後の取り組みと夢を新市につなぐ。川内町教委の樋口兼裕調査員は「これほどの文化財があることを、まずは地元の方々に周知してほしい。次世代に引き継ぐためにも」と、気運の盛り上げに期待している。

## 史跡公園合併後に夢

同町の三月定例会合、所長が整備の意欲を示した。同町はさらには伸びている。川上神社から南に八百メートル下った三島神社本殿も同様の重文に指定されている。次世代に引き継ぐためにも、町と重信町、川内町が連携して、地元の方々に周知してほしい。渡部教育長は「このことができれば、今後の文化財保護審議委員会に諮り、(合併相手の)重信町にも話をしていきたい」と話す。成川耕造町長は「観光の町としての構想があるが、いずれにしても合併後の取り組みと夢を新市につなぐ。川内町教委の樋口兼裕調査員は「これほどの文化財があることを、まずは地元の方々に周知してほしい。次世代に引き継ぐためにも」と、気運の盛り上げに期待している。



○4○

設立、所長に就任した。

地名変更の動きはいったんトーンダウンしたのだが、今回の「平成の大合併」では、またさる「悪行」が繰り返されている。

市町村合併が全国で進められたという。新市町が誕生するたびに新しい地名が発表される。だがその陰で、父祖伝来の歴史的地名が葬り去られている。どれだけの人が気付いているだろうか。「歴史を無視した改悪は日本文化の大腐敗だ」と憤る民俗学者の谷川健一さん(八二)は、地名破壊を阻止する闘いを続けている。

### 日本地名研究所

## 合併に伴う「改悪」阻止

各地に足を踏み入れて。地方の風景や生活が画一化していく中で、地名だけはその土地の息遣いを伝えている。

「地名」で地形や埋蔵資源、収穫物が分かる。ときに、遺跡発見の手掛かりとなり、古代の伝承を立証する。また、先人の誓いの足跡を思い起こさせる温かさがある。「ハズレに古い地名が書いてあるのを見る」と、ほいほい「まっ」

地名改変の第一の波は一九八〇年代に起きた。

谷川さんによると、六二年の「住居表示に関する法律」施行後五年間で、全国の町名の六、七割が



江戸時代の地図をいとおそうに見ながら「歴史を捨てたことを後悔しても、地名を取り戻すことは困難」と話す谷川健一さん

川崎市日本地名研究所

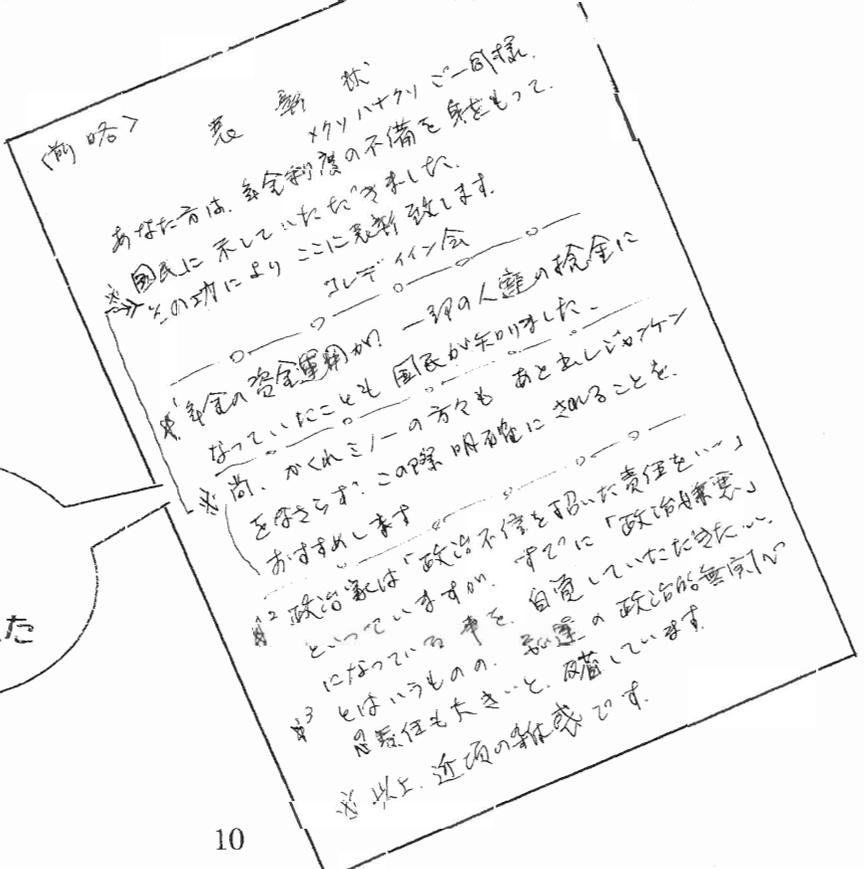
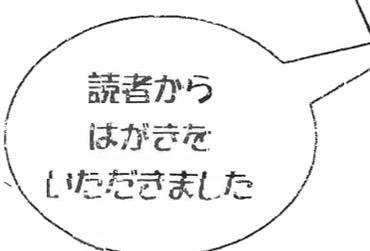
「新地名の最悪の例の一つが愛媛県の四国中央市。四国四県のどの県庁所在地からも車で二時間の所にあるというのが理屈。地名はこの協議会で決まる。「メンバーの政治家が、メンツや利害や都合で地名を決めている」と谷川さんは吐き捨てるように言った。

今年四月現在、全国千九百六十七町村に法定合併している。片仮名交じりの地名もブーム。協賛者に歴史学者や郷土史家を加えてほしい。小泉純一郎首相が一言「由緒ある地名を大切に」と言っ

てほしい。だが、いくら提案や警告を発しても、事態は改善しない。「研究者は政治家や役所を動かすが苦手でね。絶望して、日本人の知性はそのレベルなんだと冷笑したい気持ちにもなる」。だがやはり、あきらめることはできない。なぜなら「日本人としての誇りがありますから」

全国「約五千ある地名研究会を側面から支援し、今後の合併で、浅はかな改変を一つでも食い止めた」と思っている。

おわり



## 雑 感

我家の周りに広がる蓮根田にも水が入り、日毎に大きくなる蓮の葉の間を白鷺がゆっくりと歩を進めています。子ども達はメダカを求めて水路に目を凝らし、夜になるとひとときわ野太いウシガエルの声が響きます。

こんないつもと変わらない静かで穏やかな時が流れる一方、世界中で争いが絶えず、憎しみと悲しみが世の中を覆い尽くしている様にさえ思えます。



イラクでは、主権委譲も近づいているこの時期、今まで以上に混迷を極め、近隣諸国も騒々しく、武装グループの動きがますます過激に活発になっています。アブグレイブ収容所での破廉恥極まりない虐待の様子が報じられ、識者達が収容所内の規律や捕虜に対する人道的な扱いを訴えていますが、戦争と言う最も非人道的、非日常的、極限状態での出来事をいかに論議しても全てが虚しく聞こえます。歴史上の戦いがいかに非人道的で破壊的であったか、アウシュビッツに代表される様に収容所がいかにむごたらしいものであったか、私達は人道的なルールにのっとりた戦争などあり得ないということを学習すべきです。戦争は始めてしまったらもうおしまいなのです。

私達が考えるべきことは、戦争の為のルール作りではなく、何とかして戦争を始めない為にあらゆる知恵を尽くすことです。そんな中、ボランティアの為イラク入りした日本の民間人が捕えられ、政府からもマスコミからも“自己責任”という無責任な言葉が飛び交い、救出され帰国した彼らはまるで犯罪者の様な扱われ様でした。そして遂に日本人ジャーナリスト2人が殺害されてしまいました。未亡人の毅然とした態度によけいに涙を誘われました。彼らが最後まで心にかけていた失明したイラクの少年が来日し、手術が無事成功したことが唯一の救いでした。

1月に始まった第159回通常国会も先日閉会し、議員諸氏は参院選に向ってまっしぐらの様相です。

今回の国会は、今までにも増して、不誠実、はぐらかし、なしくずしといった感じで終わってしまいました。私達の老後の支えとなる年金改革に関しても、未納議員探しにばかり目が向いて、本質的な審議がなされないまま、委員会では予定されていた質問者の質問をカットしてまでの超強行採決、次い

で本会議では、野党の旧態依然とした牛歩戦術で時間ばかりが流れ、最後の秘策ともされていた議長罷免、散会への道も敢え無く失敗に終わってしまいました。

それにしても「“100年安心のための年金”のための改革には、少子高齢化が進む現状では今まで以上の厳しさに耐えることはいたしかたのないこと」と言われますが、その前に年金資金の運用の失敗について責任の所在を明らかにし、責任をとって欲しいと思います。せめて、きちんとした説明と謝罪をして欲しいものです。税金にしる保険料にしる“国民からの借金”と認識してその任にあたって欲しいものです。借金とは必ず返却すべきものです。国は国民からの借金を一人ひとりが納得できる“サービス”という形で返す義務があることをもう一度思い出して欲しいものです。

総理自身の国民年金未加入や厚生年金への不正加入問題について、御自身“そんな昔のことを言われても”とか“人生いろいろ、会社もいろいろ、社員もいろいろ、君は次の選挙で当選することが仕事、と言ってもらった。昔は良かったねえ”と煙にまく様な答弁をされていますが、“そんな昔”であっても当時既に政治家を志していたのであれば、そういう理念で政治家になり現在に至っていると判断すればいいということなのではないのでしょうか。また総理は、最近ある結婚の披露宴で“「酔うては枕す美人の膝、醒めては握る天下の権」は男の夢、私は天下の権は握りましたが・・・”という祝詞をのべられたとか。戦国時代ならいざ知らず、現代において総理総裁とは天下人なのだろうかとふと違和感を覚えたものでした。でも御自身のことを天下人だと思っておられるからこそ、再訪朝の日程の大幅繰り上げも、自衛隊の多国籍軍への参加も誰にも相談せず、国会の承認も得ずお決めになるのでしょうか。

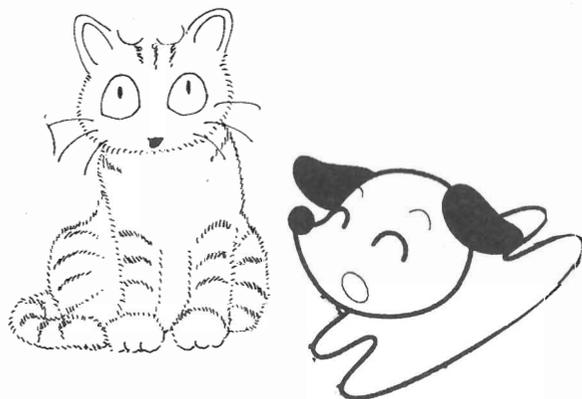
大人達の身勝手ぶりが目立つ昨今、九州では小学生女子児童による痛ましい事件が起きてしまいました。それにしても加害児童が事件後、数日を経て初めて両親に面会を許された時、両親に対して対して言葉少なだったと聞いて心底驚きました。とんでもないことをしてかかってしまって、見ず知らずの大人たちに囲まれて知らない所で不安な時を過ごした後、初めて両親の顔を見たら、それだけですべての緊張が崩れて、泣いてすがって助けを求めるのが当然と思っていたからです。彼女にとって親とは、自分を守り助けてくれると信じていることのできる存在ではなかったということなのではないのでしょうか。可哀想

でなりません。

そんな中、うれしいニュースもありました。私の大好きな重信町横河原の中奥英子さんが「式子有情」(創風社)を上梓し、純文学の分野で作家デビューされました。私まで少なからず興奮しています。王朝絵巻を背景に権力闘争に翻弄さらた人間模様を英子さんの人柄そのままの、余分な飾りをそぎ落としたすっきりとした文の流れと人間に対する深い愛情が心地良く、久々に一気に読み終わりました。“なぜ人は戦をするのでしょうか”という主人公式子の言葉に、現代社会への英子さんのメッセージが込められている様にも思えました。また、2年前に両親を相次いで見送り、今頃になってあれこれ思い出す度に行き着くところは、当時の自分の工夫の足りなさが申し訳なく、両親に一言詫びたいと思っけていても、今となってはそれさえも叶わない辛さに、生き残った主人公が、故人を偲んで懊悩する様を重ねあわせて曇る眼鏡と闘いながら読み終え、次作の予定をお伺いすると“10年後”とのことでした。5作目位までは何とか拝読したいものです。

15年近く飼っている我家のおばあさん猫に大型犬の仔犬が50日めで仲間入りして1年3ヶ月が過ぎ、仔犬もすっかり成犬になりました。最初の内は2匹が接近するだけでハラハラドキドキの連続でしたが、最近少しづつですが日々良い関係を創り出してくれている様です。先日も2匹だけで留守番させ、おそろおそろ帰宅してみると(30分後)奥から2匹揃って仲良く玄関に出迎えてくれたのは、ちょっとした感動でした。共通の言葉を持たない2匹ですが、何とかお互いの存在を認め合い、おりあいをつけていこうという気持はある様です。

(k・o)



## 閑谷学校を見学して

先日、岡山で開催された研究会に参加した後、閑谷学校を訪れる機会を得た。その研究会を主催していた岡山大学の先生が、岡山市から車で1時間ほど離れたところにある閑谷学校へ連れて行ってくださったのである。閑谷学校は以前この井戸端だよりも、取り上げられたことのある所であるが、他にも色々な人からその素晴らしさを聞いていたので、是非行ってみたいと思っていたのである。

閑谷学校は、備前藩主池田光政が藩校とは別に庶民のために建てた手習所である。学問をするには静かな環境が必要だと、静寂な山ふところに建てられた教育道場である。光政は、教育を国作りの大事と考えたのだろう。実に堂々たる講堂は全て備前焼の屋根瓦、屋根の防水構造は完璧になされており、周囲 765メートルにも及ぶ石塀は、面取りをした石垣という感じで蒲鉾型をしていて、全体として、学校の偉容を示している。

資料館なども実に充実していて、その豊富な資料から私が一番感心したのは、藩主光政の教育に対する熱意と、そのためになされた配慮そしてその後である。経済的な基盤を持たせるため、ここを藩領外の閑谷学問所領として石を与え、自立経営が出来るようにしたこと、次の藩主息子の綱政が、余り学問が好きではなく「ここを閉めたい」と隠居している光政に申し出たところ、「自分の隠居の手当を回してもいいから存続するように」息子を諭したということ、江戸時代から明治そしてその後も脈々と教育の歴史は続き、現在の和気閑谷高等学校及び青少年教育センター閑谷学校と続いていて、まさに330年の歴史を持っていることである。

一人の先見の明のある藩主の力で始まったことが、その後も根付き続いたということは、まさに教育の効果といえるのではないか。教育された人が次に教育する立場になり、その結果その精神が受け継がれていくということだろう。今の世、教育を余りに軽んじていないだろうか。教育こそお金はかかるが、その効果は時間を経してみないと分からない、しかし行き当たりばったりではなく、しっかりとしたビジョンを持って揺らぐことなく進めていかなければならないのではないだろうか。しかも国の最大事としてとらえ、真剣に取り組むべき事である。そこには経済性の論理は働かせるべきではない。閑谷学校の教育に思いをさせ、今の教育に憂いを感じる半日だった。

(T.H)

## 四角いハコモノ

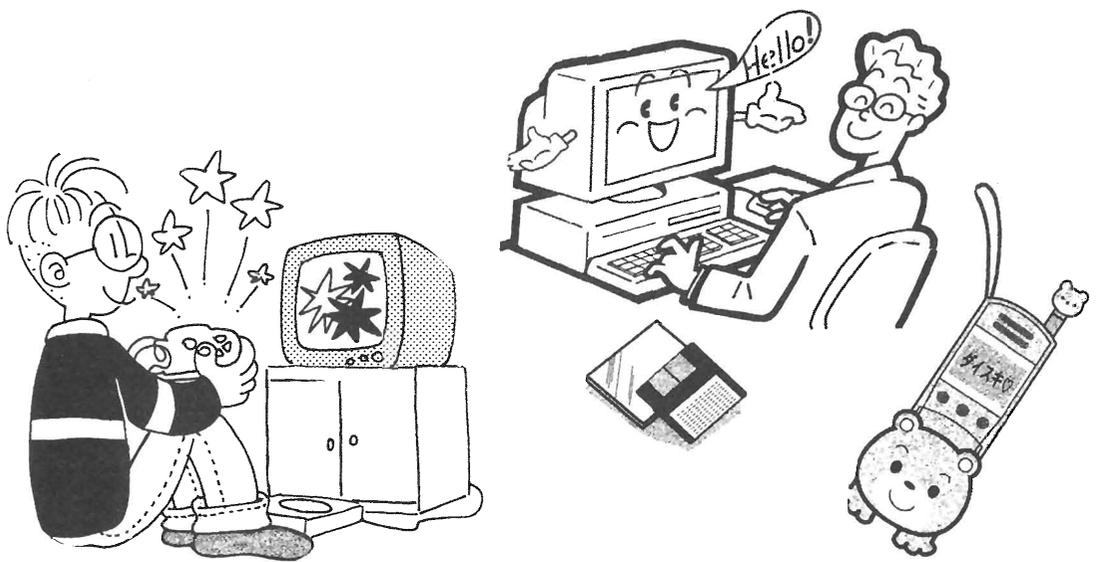
話題の本、天童荒太著「家族狩り第5部」の発売を待ちかね一気に読み終えた直後の事件だった。

佐世保市で小学6年女児が同級生を殺した事件。大きなため息と同時に身体がズシンと地下にのめり込んだ感じがした。前代未聞の事件に、社会に大きな波紋を投げかけた。担任の教師が入院し、現場に一番近い教室にいた3年生や救急隊員までもが惨事のストレス傷害。事件の核心に近ければ近い者ほど、責任を感じれば感じる者ほど痛みは激しく、心は傷ついて行く。

何故こんなことが……。天童荒太と坂本龍一（天童荒太著「永遠の仔」がテレビドラマ化された際にテーマ曲を作曲）の対談「少年とアフリカ～音楽と物語、いのちと暴力をめぐる対話～」の中で、「妄想はいい・・・ボーッと自分を見つめる時間は大切・・・」という話が出てくる。坂本氏は、西部劇の真似事で鉄条網に突っ込み怪我をしたことなどとても楽しかった少年の頃の話をしていた。彼らの妄想は、身近な実体験と結びついた無邪気なものであったという。

今回の11歳女児の場合、情報化社会の必需品と称する四角い画面（機械）、それが当たり前として生活の中心となっていたのだろう。画面に向かって、ゲームを通じ、怒り、悲しみ、妄想し、また低俗なお笑い番組では口汚く他人をけなし、殴る蹴るを見せ付けられる。そして、テレビのニュース番組では、真面目な顔をした大人が、大人社会の醜い悲惨な部分を事細かく繰り返し流す。この一連のことが、まだ善悪の判断、人間の感情が十分育っていない子ども達に、何の違和感もなく受け入れられているのではないか。発達段階の子ども達は、「仲良し（今回は交換日記・チャット仲間も）」だということは全て自分と同じように考えることだ、と思っっているのではないか。ちょっといさかいがあると、同調しない——いやなことを言う——いやなやつ——もう友達ではない——仲間はずれにしようとか懲らしめてやりたいとかもやもやと考え始める——じゃあどうやって——以前ゲーム・テレビでしていたあの方法で——これが高じて（ここが問題だが）実践……。私は、これに類する事件が起きる度に、この図式を思う。

精神が発達段階にある子どもに、精神鑑定をしようと言うのが、何がわかるというのだろう。天童荒太氏は言う。「取材で有名な事件の精神鑑定を幾つも担当されている著名な心理学者に尋ねた。精神鑑定は事件後しばらくしてからするが、それでいて事件を起こす前とか、犯行の最中の精神状態なんてわかるのかと。答えは、『わからないねえ』と。「専門家は間違えないという幻想を捨てて、判断なんてとりあ



えずの決着でしかないということをもっと認識しないとイケない」と。

テレビという一方的に情報を流し続ける四角いハコモノ、役所や郵便局、銀行へ行ってもパソコンを見詰め、電車に乗っても街を歩いても携帯電話という四角い機械とにらめっこをし、情報という得体の知れないものと繋がっていないと安心できない社会になってしまった。

勿論パソコンの普及で世の中は便利になり、パソコンなしのビジネスなど考えられない時代になってきたことは言うまでもない。しかし、その他の遊びの部分では、顔が見えないだけに使い方によっては凶器にもなる。文字だけのやりとりは、相手が生身の人間であることを忘れさせてしまう危険をはらんでいるのではないかと。

今、居ながらにして、四角いハコモノを媒体に、瞬時に世界中の情報を手に入れ、また発信できるようになった。一方で、生身の人間との付き合いが軽視されてきている。要するに、遠くのことはよく知っているが、隣近所のことにはわからないというのが現状ではないかと思う。

こういう事件が起きれば、必ず、校長先生が「命の大切さを……。他人の痛みの分かる子になって……。」と全校生徒を前に諭し、「2度と繰り返してはいけない。皆様に迷惑をおかけしました。」と頭を下げている姿が、四角い画面に映る。校長会が、教頭会が、教育委員会が、対策会議を開く。その結果、現場への指導資料を作成し配布する。それからどうなったかはマスコミにはあまり登場してこない。

教育のことは教育界だけでと言うのではなく、例えば今回の事件を踏まえ重信町内の学校はどう対処しようとしているのか、2世代同居家族が少なくなった今、子ども達やPTAだけでなく、広く住民にも情報公開をして欲しい。地域全体で支え学校を子ども達を見つめていく、顔が見える範囲のコミュニティの大切さを思う。なんと云っても、子ども達は宝物なのだから。 (S・K)

# 川内に最終処分場増設へ

## オオノ開発 県と事前協議 汚水漏れ防止構造

オオノ開発(松山市中野町、大野照旺社長)が温泉郡川内町河之内の同社川内事業所内に一般産業廃棄物最終処分場の増設を計画し、県

と事前協議を進めていることが二十八日までに分かった。同事業所内の既存処分場が今後二、三年で満杯になるため、既に同町や周桑郡丹原町

は容認の意向を示している。増設する処分場は、一般廃棄物と産廃兼用の管型(面積五万四千二百平方メートル、容量百八万四

千立方メートル)と産廃専用の安定型(面積六万三千二百平方メートル、容量百六万九千立方メートル)。ともに既存処分場に隣接する。管理型には、燃えから

や汚泥、ガラス・陶磁器、くず、鉋ざり、ばいじんなどを年四万六千四百トと、県内市町村から受け入れる粗大ごみなど一般廃棄物を年二万九百トずつ埋め立てる。予定期間は十三年間。安定型には、成分が安定しているがれき類や金属くずなどを年五万八千五百トずつ埋め立てる。予定期間は十五年間。

河川には放流しない。遮水シートは破損を自動検知する漏水検知装置と、破損しても自動修復する装置を備える。こうした構造の民間最終処分場は四国初。

管理型の構造は、汚水を地下に浸透させないよう粘土と遮水シートを敷く。廃棄物からの浸出水は既存の排水処理施設で基準値以下に浄化し、焼却施設の冷却水や場内散水に再利用、

県は三月、同社から事前協議書の提出を受け、川内町と丹原町に意見照会。「立地や生活環境保全上、問題はなし」(川内町)「住民の不安解消に向けた対応を求める」(丹原町)などの回答を得た。今後、県廃棄物処理施設設置審査会を開催して専門家の意見を聞くなど、県産廃適正処理指導要綱に沿って必要な手続きを進める。

くらしの学習会では、  
随時会員を募集しています

活動会員 2,000円/年

購読会員 1,000円/年

振込先口座番号 (郵便局)

くらしの学習会 01610-5-21026

問合せ先 TEL・FAX 089-964-6956

E-mail: kt-hayashi@nifty.com

同社は設置許可が出ればすみやかに着工し、三年後にも使用開始したい考え。